

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜市立岐阜商業高等学校 学校番号 62

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 生徒の個性に応じた教育の展開を図り、将来を展望した魅力ある学校づくりに努める。 (2) 「自彊不息」の校訓のもと、「生きる力」を身に付けた生徒の育成に努める。	
2 評価する領域・分野	◇ 教務部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携において、文書やホームページ、メール配信での情報提供に関する回答は、保護者、生徒ともに80%以上と高い評価を得ている。 ・教職員、学習指導のすべての項目で「ややあてはまる」以上の回答80%以上を目指したが、保護者、生徒ともにほとんどの項目で達成できなかった。指導の改善、授業の改善に努めていく。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇授業規律を徹底し、生徒が主体的に取り組むような「わかる授業」を追求し、基礎学力の定着と向上を図るとともに、生徒一人一人の個性を生かす指導を推進する。また市岐商ブランドの発信に努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価の充実と効果的な利用 ・「わかる授業、楽しい授業」を目指す授業研究会の設定 ・ICT活用推進委員会の設置 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) タブレット端末利用のための整備、指導	(1) 生徒のタブレット端末利用による活動状況	
(2) ICT機器を活用した研究授業・公開授業の実施	(2) ICT機器の活用した研究授業・公開授業の実践	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 一人一台貸与されたタブレット端末の効果的な利用のための指導を各教科において行う。	(1) 生徒に対してタブレット端末の利用方法や効果的な活用方法が指導されているか。	A B C D
(2) 生徒が主体的、積極的に授業に参加する「楽しい授業・わかる授業」を目指し、ICT機器を効果的に活用した授業を行う。	(2) 研究授業や公開授業において、ICT機器を活用して工夫した実践がなされているか。	A B C D
11 成果・課題	<p>○生徒への細やかな指導を全教職員が心掛け、予鈴着席やはじめと終わりの挨拶など授業規律の徹底を図ることができた。またICT推進委員会を設置し、タブレット端末やICT機器を活用した研究授業の機会を設けることで教職員の授業改善への意識向上を図ることができた。</p> <p>○コース選択は1年生の学年団の協力で均等なクラス編成を行うことができた。新2年生の経営管理科の総合コミュニケーションコースのグローバル系の選択希望者が今まで少なかったが、説明をより丁寧に行ってグローバル系を選択する生徒を更に増やすことができた。</p> <p>▲新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度は市民講座開催や中国杭州旅游職業学校との交流が実施できず、本校の特長を活発に発信できなかったため、方法を検討し、市岐商ブランドの発信に努めていく。</p>	
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の実施でICT機器を活用した指導方法を研修することができた。来年度以降も特にタブレット端末活用に関する研修を継続し、教職員の授業スキルアップにつなげていく。 ・令和4年度から実施の新教育課程に向けて、本校生徒の実態に即した指導計画やシラバスの作成、教科書の選定などの準備を更に進める。 	

2	評価する領域・分野	◇ 生徒指導部・教育相談		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導やマナー指導について、生徒と保護者から肯定的な評価を得た。 ・いじめや差別の対応について生徒と保護者から肯定的な評価を得た。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的生活習慣の確立（挨拶・言葉遣い・身だしなみ） ◇規範意識の育成（法令遵守・情報モラル） ◇人権意識の醸成（いじめ対策）		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	(1)身だしなみ指導・・・全職員 (2)交通安全・・・生徒指導部 (3)薬物乱用防止・・・生徒指導部 (4)人権教育、いじめ対策・・・生徒指導部(いじめ対策監) (5)情報モラルや規範意識・・・各学年、生徒指導部(各HR、放送)		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1)定期的なマナー指導等 登校時の挨拶・身だしなみ指導 (2)薬物乱用防止や人権に関する動画の視聴 (3)迷惑調査、教育相談 (4)全校放送による呼びかけ(情報モラル、法令遵守) (5)いじめについて考える日の設定	(1)一斉身だしなみ指導の実施及び日常における身だしなみ指導の状況 (2)動画を視聴した生徒の感想 (3)迷惑調査の結果、個別面談の対応 (4)県教委ネットパトロールからの報告及び生徒からの被害届の提出状況		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に一斉身だしなみ指導を行った。また、毎朝登校時に挨拶・身だしなみ指導を実施した。 ・人権映画を視聴。いじめについて考える日としてフォーマルデーを「ShigiUnityの日」に改め、身だしなみだけでなく、周りの人に対する日頃の言動を見直す日とし、人権意識の啓発を行った。 ・薬物乱用防止や情報モラルについての動画を視聴させ、感想文課題を与えた。(休校中課題) ・迷惑調査等で得られた情報をもとに該当生徒から聞き取り、生徒同士で話し合いをさせたり、周囲の生徒の協力を得て、環境調整を行った。また、教育相談週間や三者懇談等でその後の経過観察をおこない、再発防止に努めた。 ・全校放送で情報モラルや法令遵守について呼びかけた。 	①職員が共通理解のもと足並みを揃えた取組 ②迷惑調査(いじめを含む)から得られた迷惑行為の改善 ③交通事故件数及び盗難等被害届の減少 ④情報モラル意識の高揚	A (B) C D (A) B C D A B (C) D A (B) C D	
11	成果・課題	総合評価		
	○迷惑調査において情報のあった生徒に対して速やかに聞き取りを行い、環境調整を行うことで解決・改善した。 ○県教委ネットパトロールによる報告数はゼロであった。昨年度よりSNS被害に関する相談も少なかった。 ○今年度はコロナウイルスの影響により、講習会や講演などが実施できなかったが、薬物や情報モラルについては警視庁の動画の視聴および感想文提出による休校中課題やクラス単位で行う芸術鑑賞として人権映画を視聴させた。 ▲交通事故は昨年度より増加した。(今年11件 昨年10件 +1)	A (B) C D		
12	来年度に向けての改善方策案	・講習や講演会の実施が困難なため、別の手段で意識の啓発に取り組みたい。		

2 評価する領域・分野	◇ 進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の提供について、生徒・保護者共に概ね良い評価をいただいている。 ・生徒の進路希望に沿った指導をすることについても、生徒・保護者共に概ね良い評価をいただいている。 ・低学年では、進路希望が明確ではない生徒も少なからずいるため、進路に関する情報や指導をそれほど必要としていない可能性も考えられる。 ・進路先が多岐にわたっているため、全ての生徒の希望に合う情報を学校から提供するには限界がある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 3年生の生徒全員の納得できる進路実現 ・低学年から、進路意識を高めさせる	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・年3回の進路指導委員会 ・各学年団と進路指導部員の情報共有と協力体制	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 企業との情報交換 (2) 大学入試説明会への参加	(1) 3年生全員の進路先決定 (2) 自分の進路に対する満足度	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、コロナウイルスの蔓延により、企業訪問が難しい状況であった。よって、電話による聞き取りを行った。 ・大学入試説明会も、昨年度よりは数が減少しており、参加した説明会も減ったが、オンラインでの説明など、できる範囲での取り組みができた。 	①就職希望者内定 ②進学希望者合格 ③低学年（1・2年）からの進路意識の醸成	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○ 3年生の生徒は概ね順調に進路が決まったが、数人まだ進路の決まっていない生徒がいる。しかし、自分の希望する進路に向かって挑戦する姿もあり、取り組み自体は評価できる部分が多々ある。特に、大手企業や国立大学への挑戦が数年ぶりに実を結んだことは喜ばしいことであった。 ○ 就職試験が例年より1か月遅くなり、進学用調査書の様式が変更になるなど、書類作成や生徒の指導にかかる担任の負担が大きかったが、何とか乗り切ることができた。 ▲今年度から新たに「キャリアパスポート」の運用が始まったが、決してまだ軌道に乗っているとは言いきれない。進路指導室に保管されているが、これでは適宜生徒の指導に役立てるには不便すぎる。 ▲生徒を一カ所に集めることができなかつたため、進路ガイダンスなどが実施できず、情報の共有や意識の向上がうまく図れなかつたように思われる。	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・面接指導と部活動指導の在り方をすり合わせ、協力体制を作る。 ・キャリアパスポートを教室に保管することを考える。 ・今年度の成果を生かし、指定校推薦に頼らず、高い目標に向かって努力させる。 ・3年生の生徒へも職員へも分かり易く情報を提供する。 		

2 評価する領域・分野	◇ 特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事が充実している」への回答に、肯定的な意見が8割と昨年度の7割から増加した。また、部活動においては、約9割が肯定的な意見で昨年度と同様であった。 ・「学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる」の回答が、保護者は8割に対し、生徒は6割であった。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の自主性や創造力を発揮できる活動の場の拡大を目指す。 (2) 部活動の更なる活性化を図る。 (3) 生徒の実態を把握し、生徒会活動を充実させる。 (4) ボランティア活動・地域行事について、全校体制で積極的に参加する。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・特別活動部、各種委員会、生徒会執行部、各部活動、ホームルーム	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 重要議題について生徒議会を開催し、全校生徒の問題意識や帰属意識の向上を図る。 (2) 1年生対象の部活動紹介を工夫して各部の魅力を伝え、更なる部活動の活性化を図る。 (3) 執行部による学校行事の検討を行う。 (4) ボランティア活動に対しての啓蒙活動と地域行事への参加を生徒全体に呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校行事・生徒会行事における生徒の参加の仕方 執行部会・各種専門委員会の年間反省 (2) 各部活動の活動状況及び実績 (3) 行事後のアンケート (4) ボランティア活動・地域行事への取組状況 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒議会を開催するような重要な検討事項が発案できず、議会を開催できなかった。 ・部活動に関しては職員の意見を聞き、次年度への改善点を部顧問会議で決定した。 ・定期的に執行部会を行い、当面の活動を理解したり、内容を検討したりして積極的に活動できた。 ・4月から6月の休校明けに部室、その他活動環境においての一斉清掃、消毒作業を各部で行った。 ・今年度のボランティア活動は11月の論田川清掃のみ参加できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が自主性・創造性を発揮できる場面があり、満足感を得ることが出来る。 ②部活動が活性化し、より多くの生徒が部活動を通して生き生きと活動する姿が見られる。 ③学校行事や委員会活動に対しての意識が高まり、生徒から新たな要望が出てくるようになる。 ④地域の行事に積極的に参加する姿が見られるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> A B C D A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	<p>▲今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、学校行事や委員会活動は、ほとんど実施できなかった。密を避ける工夫を凝らしながらできることを考えるきっかけになったので、来年度に活かしていきたい。</p> <p>▲論田川清掃をはじめとする地域貢献、ボランティア活動もほとんどが中止となった。来年度コロナ禍が収まったところで、積極的に活動参加したい。</p> <p>▲生徒主体の生徒会活動を充実させることができなかった。議会開催の時期を検討して実施していきたい。</p> <p>○部活動の大会も中止が多い中、地道な活動を続けることができた。今後もより生徒が目標達成に向けて活動できるような環境づくりをしていく必要がある。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を全校生徒に周知し、参加の呼びかけを強化する。 ・安全面に十分配慮して、部活動の活性化を更に進めていきたい。施設面などの充実も計画的に行う。 ・「学業」と「部活動」を学校生活の柱として、生徒がより意欲的に取り組めるよう、教員側も指導者のスキル向上に努める。 		

2 評価する領域・分野	◇ 保健厚生部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 安全に関する指導は、生徒・保護者とも8割強の高い数値で評価されている。 地震や台風などの対応についても、生徒・保護者の周知が進み、約9割に迫る高評価が生徒・保護者から得られた。 清掃に関しては約6割の生徒が行き届いていると評価したが、この数値は前年度より低下した。更に取組が必要と感じている。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関する基本的な知識や習慣を身に付けさせ、生涯を通じて健康な生活を営むことができる能力を育てる。 心身共にバランスのとれた人間の育成を目標として健康教育の推進に努める。 安全に留意し、危険防止に努め、緊急時や災害時に適切な行動が取れる態度を育成する。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルに基づいた全職員による組織体制 保健主事、養護教諭、クラス担任、保護者の連携体制 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> (1) 保健主事、養護教諭、担任、学年主任の連携強化 (2) 危機管理マニュアルの周知徹底、職員研修会の実施 (3) 委員会活動の活性化 (4) 全職員・生徒による命を守る訓練(年2回実施) 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 保健室の利用者の数や内容 (2) 非常変災時に対する学校の対応と生徒および職員の行動についての周知徹底の向上 (3) 保健委員会・美化委員会の日常的な活動と、啓発活動の活性化 (4) 避難訓練ができなかったため、達成度の評価は困難であった。 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> 悩みを抱えている生徒について、相談室、保健室、担任、生徒指導が連携して対処する。保健室利用者数が昨年同様少ない傾向で良好である。 平日に非常変災時がなかったため、訓練による生徒の帰着確認を実施した。 保健だよりに加えて、予防や注意喚起など、適時に実施する。また、校内放送で教員から生徒に直接呼び掛ける。 生徒に予告なしで命を守る訓練を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自己の健康に関心があり、行動が伴っているか。健康診断の受診勧告に対する受診率。 ②帰着確認のできた割合。 ③コロナ感染を未然に防ぐため、良いタイミングと内容で注意喚起出来ているか。 ④命を守る訓練を体験して、防災意識が高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D A (B) C D (A) B C D (A) B C D 	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○校内における健康に関する取組は、学校保健安全法(実施期間の延長)にのっとり、実施すべき取組は例年と違った方法ではあったが滞りなく行えた。ただ新体力テストに関しては、感染症対策の観点から実施できない項目もあった。 ○校内の環境整備は校務員の多大な尽力もあり向上した。美化についてはもう一つレベルを上げていきたい。 ○命を守る訓練は年間2回実施し防災意識の向上を図った。2回とも予告なしで行った。訓練のシチュエーションを変化させることで、防災意識の高揚が図れた。ただ全校一斉の避難訓練ができなかったため、来年度以降の課題である。 ○安全点検を毎月実施することで、職員の安全意識が高まった。 ○新型コロナウイルス感染拡大が続く中、本校では、検温、手指消毒、喫食時の注意喚起および夏場、冬場の換気等の徹底が生徒に浸透していると考え。今後も継続したい。 		<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ陽性者ゼロの学校を目指し、換気、消毒等の徹底を図りたい。 ・新型コロナウイルス感染者ができた時の消毒体制等をしっかり整える。 ・生徒が生徒自身の体調をしっかりと言語化できるようにさせたい。 ・清掃の時間を中心に校内環境美化をさらに向上させたい。 ・コロナ禍における命を守る訓練を継続実施し、防災意識の高揚を図りたい。 ・校内安全点検をもとに、不良個所の修繕を迅速に取り組みたい。 			

2 評価する領域・分野	◇ 渉外部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A や部活動振興会等の徴収金についてその予算や決算、経費の執行内容を詳細に公表されているとの評価をいただいた。(全体の87%) ・ 一斉配信メールサービスは概ね有効に活用されている。(全体の94.9%) 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇市岐商デパートを企画・運営することで、保護者との連携を図る。 ◇総会や支部懇談会、心のキャッチボールおよび生徒保護者にアンケートを実施することで、P T A 会員相互の連携を図る。 ◇生徒の健全な育成を重視し、保護者との連携を密に行う。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本部役員会の開催 ・ P T A 常任委員会(事業、広報、支部、部活動振興会)の定期的開催。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)市岐商デパート飲食・謝恩品部門を開催する。 (2)P T A 総会、支部懇談会等を実施する。 (3)保護者へメール登録依頼・配信を行い、情報を提供する。	(1)市岐商デパート飲食・謝恩品部門での売り上げ実績 (2)P T A 総会、各種研修会の参加人数 (3)保護者の登録件数と学校からの配信回数	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市岐商デパートの代わりに古本回収を実施した。 ・ P T A 総会(書面表決)および支部懇談会を実施した。 ・ 球技大会において生徒に飲料水を配布した。 ・ コロナに関する生徒応援のために Q U O カードを配布する。 ・ メール登録を呼び掛けると共に、学校から種々の情報を配信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①わずかながら、保護者の協力を得た。 ②学校・保護者との連携が図れたか。 ③生徒には喜んでもらえた。 ④準備し2月5日に全校生徒に配付をする。 ⑤全校生徒の保護者が登録してもらえたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため市岐商デパートの形態が変更し、飲食・謝恩品バザーの実施ができなかった。来年度は実施された場合、状況も考えながら、お客様をお迎えできるようにしたい。</p> <p>○謝恩品バザーの代わりに本部役員の発案から古本回収を行った。わずかではあった文書やメールで複数回呼びかけをおこなったため、保護者の協力が得られた。</p> <p>▲メール登録を保護者・生徒に必ず登録してもらえよう職員が協力して登録してもらおうよう呼びかける。</p> <p>▲フィルタリング等でメール登録できない保護者・生徒に対しての連絡方法を担任と確認する。</p> <p>▲サーバからの直接登録も可能のため、登録できない保護者、生徒に呼びかけ、登録をする。</p> <p>▲会議が開催できず、意見調整が難しかった。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A そして学校からの連絡としてメール配信を上手く活用し、生徒の学校生活が把握できるよう配信していく。 ・ 他の分掌とも情報を共有し、H P と共に情報伝達の媒体の一つとしてとして、定期的に保護者へのメール配信を実施する。 ・ メール登録の状況を帰宅確認で行うとともに、登録できなかった者に対する対応や機種変更等によるメールアドレスの変更をした者への対応を強化する。 ・ 新型コロナウイルス感染の状況が不透明の中、状況に応じて活動できることを P T A 本部役員と共に検討をしていく。 	
	総合評価 A (B) C D	

2 評価する領域・分野	◇図書・視聴覚部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用については、昼休み及び放課後に図書・視聴覚委員が貸出等に対応している。放課後には学習のための利用も見られる。 ・図書館の貸出数の増加が望まれる。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇貸出数、利用数の増加を目指すとともに、朝読書を実施する。 ◇調べ学習に対応できるよう、教科担任との連携した選書や地域図書館との連携を目指す。 ◇プロジェクタや書画カメラを備えた会議室の積極的な利用を促す。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の活動(委員一人ひとりの自覚と自主的な活動) ・各教科・学年との連携 ・図書視聴覚部内での連携 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 各教科の調べ学習の選書を充実させる。 (2) 選書を工夫するなど、利用しやすい図書館を目指し、生徒の利用を促す。 (3) 視聴覚機器を利用した授業の推進を行う。	(1) 生徒の貸出数、利用者数の確認 (2) リクエストに対する本の積極的な入れ替え (3) 視聴覚教材(デジタルデータ)の一覧表		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・「開かれた図書館」を目指し各教科と連携し、生徒のリクエストに応えながら選書を実施して生徒の興味、関心を促した。 ・視聴覚機器の管理、利用推進を行った。 	①貸出数と利用者数等による利用状況の確認 ②効果的な選書の実施ができて いるか ③視聴覚機器の管理と貸出状況の確認	(A) B C D A (B) C D (A) B C D	
11 成果・課題	○コロナ禍において、図書館を安全に利用できるよう適切に換気をし、机や椅子及び返却本の消毒を行った。 ○新着図書の案内に加え、図書だよりを定期的に発行し、先生や図書視聴覚委員のお薦めの本を紹介し、図書館の利用増加を目指した。 ▲図書の蔵書管理システムの導入が予定の導入時期より遅れている。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の利用者を増やすため、図書視聴覚委員の生徒にも購入図書の選書に参加してもらう。 ・普通教室でもプロジェクタなど視聴覚機器を利用した授業が展開しやすい環境を整備する。 		

2 評価する領域・分野	◇ 商業教育部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の80.0%、保護者の88.9%が「より高度な資格取得の達成に努めている」という回答。今後も進路選択に向け有効となる資格取得の指導の充実を図る。 ・生徒の83.6%、保護者の83.5%が「本校に入学してから、言葉づかいや礼儀・マナーなど、社会人として必要な資質が向上した」という回答。10%程度は向上していないと感じているため、より言葉づかいや礼儀・マナーなど、社会人として必要な資質を向上させていきたい。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒一人一人がもつ個性や能力の伸長 自ら考え、学ぼうとする力の育成を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を実践する。 ◇職業資格取得のための指導 生徒自らが自分に適したキャリアを意識し、目的意識をもって、職業資格の取得に取り組むよう指導を行う。 ◇ビジネスに対する望ましい心構え 職業人として必要な倫理観やビジネスマナーを身に付けさせ、豊かなコミュニケーション能力を育成する。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・商業の基礎科目の授業改善、及び各学科コースにおいてチームティーチングによる習熟度別の学習や遅進者に対して補習等を実施する。 ・各科目責任者を中心とした授業研究を行い指導内容の充実を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業改善を行い、生徒の興味・関心を喚起することで、自主的意欲的に授業に取り組む姿勢を育成する。 (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、自ら進んで学習する能力を高める工夫をし、自信を付けさせる。 (3) 市民のニーズに合った講座を計画し実施する。講座で生徒に講師をさせ、コミュニケーション能力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 研究授業、授業評価により判断する。 (2) 生徒の授業評価、授業や家庭学習の取り組み状況により判断する。 (3) 受講者のアンケート結果により判断する。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・教科により習熟度別授業やチームティーチング、少人数授業を実施しており、個々の能力に応じた指導と学習に対する意欲と理解の向上を図る。 ・全商簿記検定前の3日間は、特別編成時間割を組み、集中的に学習を行う時間とし学習進度に応じてきめ細やかな指導を実践。 ・外部講師を活用した課題解決型の授業を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒からの授業評価結果 ②検定の合格率及び資格の取得率 ③受講者の満足度 ④コンテスト等への応募 	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D A (B) C D (A) B C D A B (C) D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○各科や各コースの課題研究で取り組んだ成果物を、課題研究発表会において全校生徒に発表した。 ○税に関する授業や商品開発などの授業について、外部講師を招聘した授業を実施することができた。 ▲新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校により、授業時間の減少と検定学習機会の減少により検定試験合格者が減少した。 ▲商業の基礎基本となる1年次の学習に差ができています。入学する生徒の現状を見極め、よりきめ細やかな指導が必要である。 ▲生徒の12.6%は「外部講師の講演や様々な体験活動等の授業以外の学習の機会が多い」にあてはまらないと感じている。商業の学びの中で、外部講師を活用し、より効果的な学習を行えるようにしていく。 	
12	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・学科改編によるカリキュラムの変更および新学習指導要領の実施に向けて、到達目標の設定、年間指導計画について検討を図る。 ・地域の魅力を知り、地域課題を発見・解決する学習を推進する方策について検討を図る。 ・ビジネスプランの作成など、探究型授業の実施について検討を図る。 ・商業教育部として、社会に貢献できる人材育成（挨拶・礼儀・マナーの指導）をする。 ・外部の企業や大学、専門学校から講師を招聘することで、より実践的な社会に即した講演や授業などの学習活動を行う。 ・就職や公募制推薦による進学へ対応できるように検定指導など対応できる基盤をつくる。 	

2 評価する領域・分野	◇ デパート課		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「市岐商デパート」は、生徒・保護者・教師が一丸となって取り組むすばらしい行事であるというアンケート項目では、生徒・保護者ともに、80%以上の方があてはまると答えている。「市岐商デパート」が、本校の商業教育発表の場であることが理解されていると分析し、今後、進化・発展した取り組みを実施し、学校のPRに努める。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1)「市岐商デパート」を通じて、岐阜の産業や特産品に着目し、岐阜の活性化や学校のPRに努める。また個々においてビジネスマナーの向上を目指す。</p> <p>(2)商業教育の発表の場として、商業で学んだ知識や技術を活かし、仕入・販売・経理・経営の各業務を実践遂行する。</p>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 2部8課の組織体制で、生徒中心に活動を行っている。(取締役会) 課を代表する教職員による委員会を実施。(デパート委員会) 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 県産品を用いた商品開発 (2) 市場調査や取引先の開拓	(1) 地元企業との連携とお客様に喜ばれる商品開発 (2) アンケート結果による新たな取扱商品の開拓		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染防止のため、対面販売から、通信販売に切り替え実施する。 昨年に引き続き地元洋菓子店と連携し、岐阜市産のいちごなどを使用した製品を、また、和菓子店とは県産品の素材を用いた商品を共同開発し販売する。 市岐商デパート40周年を記念した取組を行う。 	<p>①対面販売を通信販売に切り替え実施することができた。</p> <p>②洋菓子店とは地元産のいちごなどを使った洋菓子、和菓子店とは県産品の素材を使用したどらやきや鮎菓子を販売した。</p> <p>③通信販売など市岐商デパート40周年を意識した取り組みを行うことができた。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○「市岐商デパート」開催以来、初の通信販売を実施することができた。 ○「市岐商デパート」の開催前後に、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等に出演し学校やデパート開催についてPRすることができた。 ○売場主任を対象に通信販売のスキルの向上を図るためにデパート講習会等を実施した結果、購入されたお客様から高い評価を得ることができた。 ○地域の活性化につながる商品を新しく販売品目に加えることができた。 ○通信販売を行ったことにより、遠隔地(県外)の方にも販売することができた。 ○新たな仕入先を開拓することができた。 ▲商業教育の発表の場ではあるが、生徒は、すべての商品取引についての知識や技術を習得しているわけではないので、事前に必要な知識や技術を逐次確認をする。 ▲今年度の反省を改善して、次年度に向けて早めの取組をする必要がある。 		<p>総合評価</p> <p>A Ⓑ C D</p>
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・39回に向けて、仕入業者との提携のあり方や次年度取扱商品などについて検討する。 ・認知度を上げるためのPR方法を検討する。 			

【意見・要望・評価等】

1 ICTの活用について

- ・タブレットの活用に期待する。公立と私立との環境の差はない方が良い。
- ・タブレット端末やICT機器の活用はコロナウイルス感染症防止対策上、密集等が避けられ大変有効な手段だと思われる。教職員の方も大変だと思うが、推進委員会等で様々検討していただければ良い。
- ・改善方策案にあるように、研究・研修に尽きると思われる。
- ・タブレット使用についてはスタートしたばかりなので、今後有効な活用ができるよう期待している。
- ・小中学校や他の高校によっても活用状況が違うと思うので、情報交換を行ってもらうと良い。
- ・各家庭でも使用環境（Wi-Fi環境等）など問題点はあるかもしれないので、情報共有して対応していただきたい。
- ・ICT教育、普及は必然であるが、いい意味でコロナ禍が加速させたのではないか。まだまだ効果的な活用方法が指導されているかの評価も低いので今後の課題かと思う。子どもたちの順応性は高いので、ご指導よろしくお願ひしたい。

2 市岐商デパートについて

- ・オンラインと実体験のダブルが良い。
- ・一昨年、立ち寄らせていただいたが、各コーナー商品等も充実していて大変活気があった。昨年はコロナの影響で、初の通信販売となったが、いつもとは違った経験ができたかと思う。この経験を次年度に生かしてほしい。
- ・継続するだけでも大変であると思われるが、常に挑戦されている姿は評価できる。
- ・今年度はコロナの影響の中でも新しい取り組みが成功して良かった。
- ・子どもたちのなかには、例年より一体感が味わえなかったという意見も見受けられた。
- ・今後は通信販売と対面販売を両立していけると良いと思う。
- ・初めての通信販売。対面販売ができなかったのは残念だが、違った形でデパート経営ができたことで良い経験になったと捉えれば良い。第39回は校内販売ができることを祈る。個人的には自筆で書かれたお礼状に感銘を受けた。

3 来年度の学校運営について

- ・生徒の考える力を育む為にも教諭のサポートがカギとなる。サポートしすぎないことも必要である。
- ・キャリアパスポートの運用が始まったばかりで模索状態だと思われるが、将来に向け有効活用できるようになれば良い。
- ・到達目標の達成のためにチーム市岐商の取り組みをする。
- ・来年度もしばらくはコロナの影響があると思う。先生方もいろいろ対応で大変だと思うが、今年度の経験を活かして連携していただき、子どもたちのご指導をお願いしたい。
- ・各部長から来年度に向けての改善方策案が出されているので、各々の案のより具体化を図り、進めていけば良い。

4 家庭・地域との連携について

- ・今年度はコロナの影響で当センターと生徒さんとの交流ができず、残念だった。今後とも読み聞かせ隊、ブラスバンド、卓球指導等でご協力願ひたい。
- ・信頼関係構築の実践。
- ・家庭との情報交換も、やはりコロナの影響で難しかったと思う。
- ・市岐商デパートも地域の方を迎えることができず、凧揚げなどの地域行事も中止になってしまい残念だった。来年度はコロナが収束し、いろいろな行事が行えることを願う。
- ・コロナの関係で予定していた行事がほとんど開催できず、せっかく市岐商の生徒さんが（地域の）手助けを申し出ただけなのに残念である。地域美化運動（論田川清掃）、敬老会でのアトラクション、凧揚げ大会参加・支援等今後ともよろしくお願ひしたい。更には、皆さんの挨拶が気持ちよく、地域の安心・安全に一役買っており、笑顔が広がれば明るくなる。

5 その他、意見・提案・感想等

- ・母校の発展の為に微力ながら協力したい。
- ・今年度から委員に加えていただき、また市岐商の運営、地域との連携等大変参考になり、有り難い。
- ・どの部門においても成果があり、努力が窺われる。今後も生徒たちの利益を追求するためによろしくお願ひしたい。
- ・今年度はすべてにおいてコロナの影響があった。来年度は学校生活や部活動において、今までのやり方と新しいやり方を織り交ぜて躍動の年になるといい。
- ・学校の施設としては、トイレが少ないという意見がある。
- ・進路指導において、生徒個人と担任の先生に対し、もう少し学校全体のサポートが必要かと思う。
- ・ここ数年でいろいろと経験のある先生の異動が多く心配という声もある。
- ・今後、鏡島という地区をもっと知っていただけるように直近の「広報かがしま（年2回発行）」を渡したい。月2回の回覧物で必要と考えられる物もお届けするようにしたい。